

# 新国立競技場建設計画の経緯

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会 作成 2015年8月8日現在

国、自治体、JSCの動き		建築界・市民の動き
2005年(平成17年)		
3月18日	「明治神宮が神社本庁離脱直後に急浮上した外苑再開発計画。推定1兆円以上」週刊金曜日が報道	
2011年(平成23年)		
2月15日	ラグビーワールドカップ成功議連による国立競技場建て替え決議。初めて「新築」、「8万人」が出る	
3月25日	久米設計が国立霞ヶ丘競技場陸上競技場耐震改修基本計画を提出 (サブトラックを地下に設置、設計・1年、工期・2年、工事費・777億円、うち地下工事に110億円)	
6月24日	スポーツ基本法公布	
12月13日	閣議において2020年第32回オリンピック競技大会・第16回パラリンピック競技大会の東京招致が了承される	
2012年(平成24年)		
3月	スポーツ基本法に基づくスポーツ基本計画が策定され、これにより「オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進」が掲げられる	
3月6日	第1回有識者会議、議題1、国立競技場の将来構想、2、ワーキンググループの設置	
4月23日	JSCが国立霞ヶ丘競技場整備に係る基本計画策定に関する資料作成業務(株)都市計画設計研究所 約5000万契約	
7月13日	第2回有識者会議、議題1、国立競技場の改築に向けた論点整理について、2、新国立競技場基本構想デザイン公募について	
7月19日	霞ヶ丘アパート役員会(町会)に、東京都が移転の要請	
7月20日	日本スポーツ振興センター(JSC)が新国立競技場国際デザイン競技の手続き開始公告を出す。	
8月26日	東京都主催(JSCも同席)霞ヶ丘アパート移転説明会	
11月15日	第3回有識者会議、議題1、新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査結果について、2、今後のプロセスについて	
11月16日	46応募作品の中からザハ・ハジド氏作品が最優秀賞と決まる	
11月27日	JSCが近隣住民に対して「国立霞ヶ丘競技場建替え計画概要説明会」を開催	
12月4日	JSCが「神宮外苑地区地区計画」の企画提案書を東京都に提出	
12月12日	JSCが国立霞ヶ丘競技場整備に係る基本計画策定に関する資料作成業務(その2)都市計画設計研究所3000万契約	
2013年(平成25年)		
1月21日	都市計画原案の公告・縦覧(意見書提出期限2月12日)	
2月19日	東京都から各区(新宿・港・渋谷)へ意見照会	
2月22日	東京都が都市計画案の説明会を開催	
2月25日	都市計画案の公告・縦覧(3月11日まで)	
4月	各区から東京都への意見回答	
4月3日	JSC 国立霞ヶ丘競技場改築整備に係る開発手法検討等業務委託 (株)都市計画設計研究所3600万随意契約	
5月17日	東京都都市計画審議会が20mの高さ規制を75mに緩和する再開発促進地区計画を承認し都知事に答申	
5月31日	JSC新国立競技場フレームワーク設計業務を日建設計・梓設計・日本設計・アラップ設計共同体 約3億で契約	
6月17日	都市計画決定告示	
7月29日	新国立競技場フレームワーク設計に関するデザイン監修業務ザハ事務所と1億で契約	
8月15日		横文彦氏、日本建築家協会発行の雑誌に「新国立競技場案を神宮外苑の歴史的脈脈で考える」と題した論考を発表する
9月7日	IOC総会で2020年オリンピックの東京開催が決まる	

9月30日	JSCが設計JVと契約変更、解体工事实施設計として9200万円追加 JSCがザハ事務所と新国立競技場フレームワーク設計に関するデザイン監修業務2億で変更契約	
10月	財務省主計局より「国・地方とも財政改革が緊要な課題であることに鑑み、簡素を旨とし、大会の開催に係る施設については、既存施設の活用を図ること」としたオリンピック・パラリンピック関係資料が発表される。	
10月11日		シンポジウム「新国立競技場案を神宮外苑の歴史的文脈で考える」開催。この様子はインターネットで中継され、新聞各紙、TVニュースでも報道される。登壇者 榎 文彦（建築家） 陣内 秀信（建築史家・法政大学教授） 宮台 真司（社会学者・首都大学東京教授） 大野 秀敏（建築家・東京大学大学院教授）
10月28日		●神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会(手わたす会)設立
11月7日		榎文彦氏をはじめ建築家4名が文部科学省および東京都に「新国立競技場に関する要望書」を提出、発起人および賛同者に建築関係者100人が名前を連ねる ●手わたす会 ホームページ開始
11月25日		●手わたす会が内閣府、文部科学省、JSC、都知事に要望書・質問状および署名簿を提出。都庁記者会見 ●手わたす会が公開座談会「市民とともに考える新国立競技場の着地点」を開催。登壇者 松隈洋（建築史家、京都工芸繊維大学教授） 藤本 昌也（建築家、日本建築士連合会名誉会長）日置 雅晴（弁護士、早稲田大学大学院教授）平良 敬一（建築評論家、「住宅建築」相談役）渡辺 邦夫（構造設計家、新国立競技場デザインコンクール応募者）森山 高至（建築エコノミスト）森 まゆみ（作家/神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会共同代表）
11月26日	第4回有識者会議開催	
11月28日	自民党無駄撲滅PTにより新国立競技場に関するヒアリング実施（現国立競技場の耐震改修費用は700億円、コンペ条件の工事予算費用1300億円は日産スタジアム700億円を参照、屋根付きにすることで100～150億円のコスト増となるが年間12日程度のコンサート利用・4億8000万円の収入が考えられる）	●手わたす会 change.orgで「神宮外苑の青空と銀杏並木の風景を守ろう！巨額の建設費をかけない、いまある国立競技場を直して使おう」キャンペーンを立ち上げ、ネット賛同署名を集め始める。
11月30日		●手わたす会 第1回外苑ウォーク実施
12月13日		●手わたす会 青柳文化庁長官に要望書を提出。
12月24日		●手わたす会 JSC、国立競技場将来構想有識者会議、国際デザイン競技審査委員長宛に公開質問状を送付
12月27日	自民党無駄撲滅PTによる第2回目ヒアリング（工事予算の上限・1388億円、ランニングコストの赤字補填を行わないことを確認）	
2014年(平成26年)		
1月10日	JSCが設計JVと新国立競技場基本設計その他業務 6億で契約 JSCがザハ事務所と新国立競技場基本設計に関するデザイン監修業務 1億で契約	●手わたす会 都知事選立候補予定者に公開質問状を送付
1月14日		●手わたす会 公開勉強会「みんなで学ぼう 新国立競技場のあり方」を開催 登壇者 森 まゆみ（作家/神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会共同代表）鈴木 知幸（元2016年東京オリンピック招致準備担当課長・順天堂大学客員教授 沖塩 莊一郎（日本ファシリティマネジメント協会理事、東京理科大学名誉教授）森山 高至（建築エコノミスト）山本 想太郎（建築家、日本建築家協会デザイン部会長）
1月31日	JSCより手わたす会へ12月24日公開質問に対する回答 安藤委員長からの返答はなし	
2月5日	参議院予算委員会にて有田芳生議員が新国立競技場建設について質問 （ハデイド氏に監修料として13億円支払うこと、競技場利用による年間収入50億円、維持管理約46億円、約4億円の黒字となる試算が示される）	
2月18日		●手わたす会 公開勉強会「スポーツ施設としての新国立競技場を考えよう」を開催 登壇者 森 まゆみ（作家/神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会共同代表）後藤 健生（スポーツジャーナリスト）鈴木 知幸（元2016年東京オリンピック招致準備担当課長・順天堂大学客員教授）今川 憲英（外科医的建築家憲+TIS&Partners 東京電機大学教授）
2月26日		●手わたす会 JSCに再度質問状を送付
3月3日		●手わたす会 舛添都知事、JOA、文科省にオリンピックムーブメント・アジェンダ21遵守の要望書を提出。

3月14日	参議院予算委員会にて運動議員が新国立競技場について質問 (現競技場の解体及び新競技場の建設費用計2000億円は国・都・JSCが分担するが現在協議中であり、その割合は未定であると久保公人文科省スポーツ青少年局長回答)	
3月15日		●手わたす会 第2回外苑ウオーク実施
3月24日		●手わたす会 公開勉強会「新国立競技場、このままでほんとにいいの？」を開催 登壇者 森 まゆみ(作家/神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会共同代表)松原 隆一郎(社会経済学者、東京大学教授)柳沢 厚(日本都市計画協会理事、C-まち計画室代表)横河 健(建築家、日本大学教授)今枝秀次郎+平山貴大(東京大学工学部建築学科3年)
3月27日		●手わたす会 JOCにオリンピックムーブメント・アジェンダ21遵守の要望書を送付
3月27日		平凡社より「新国立競技場、何が問題か オリンピックの17日間と神宮の杜100年」榎文彦編著出版
3月31日	JSCがザハ事務所と新国立競技場基本設計に関するデザイン監修業務 7000万契約	●手わたす会 トーマス・バッハIOC会長に新国立競技場をオリンピックムーブメント・アジェンダ21遵守の要望書を送付
4月4日		●岩波ブックレット「異議あり！新国立競技場」出版
4月5日		●手わたす会 JSCによる現国立競技場解体工事入札に対し抗議文を送付
4月16日	東京都が2020年東京オリンピック環境アセスメント調査計画書に関する意見募集を行う	
4月23日		「新国立競技場、何が問題か」出版記念シンポジウムが開催される。 登壇者 榎 文彦(建築家)大野 秀敏(建築家、東京大学大学院教授)森 まゆみ(作家)陣内 秀信(建築史家、法政大学教授)
4月24日	JSC解体の入札を公告	
5月12日		シンポジウム「新国立競技場のもう一つの可能性」が開催される 登壇者 中沢 新一(人類学者、明治大学野生の科学研究所長)伊東 豊雄(建築家、RIBAゴールドメダル、ブリツカー賞受賞者)森山 高至(建築エコノミスト)松隈 洋(建築史家、京都工芸繊維大学教授)/司会
5月15日	JSCより手わたす会へ公開質問状の回答が届く／第43回 みなとスポーツフォーラム「2019年ラグビーワールドカップに向けて」JSC山崎本部長登壇し、競技場の説明を行う	
5月21日	衆院文部科学委員会で宮本岳志議員が質問し、異論に耳傾け民主的手続きの徹底をはかるよう求める。	●手わたす会 内閣総理大臣、文科大臣、JSC、都知事にあて、国立競技場の解体中止と改修検討をもとめる要望書を送付
5月22日	東京都議会 日本共産党東京都議団 国立競技場解体中止の見解 記者会見	
5月23日		日本建築家協会が文部科学省・東京都・JSCに対し、国立競技場解体中止の要望書を提出する。
5月28日	JSC、新国立競技場の基本設計を発表、第5回有識者会議でこれを了承する 手わたす会が3月31日にIOCに向け送付した要望書の返信が届く 2020年東京五輪環境アセスメント評価委員会、五輪会場などに関する環境影響評価書を作成する際の留意点をまとめ、都環境局長に意見具申を行う	
5月29日	JSC解体入札を開札(予定価額を上回り不落となる)	
5月30日	JSCが新国立競技場基本構想国際デザイン競技報告書(競技概要・応募状況・審査概要・質疑)を公表	
5月31日		●手わたす会 バッハIOC会長にあて、改めて要望書を送付する。／手わたす会大橋智子 新スポーツ連盟シンポジウム登壇者として参加
6月5日	渋谷区議会オリ・パラ特別委員会と新国立競技場周辺住民代表者との懇談会が開催される	国際環境影響評価学会元会長原科幸彦氏、IOCバッハ会長宛に手紙を送付
6月9日	JSCは競技場取り壊し業務入札が不落であったことを発表	
6月10日		●緊急要望書「使いやすく愛される競技場を作るために、解体を半年延期し、検討委員会を設置してください」送付
6月13日		●外国人記者クラブにて競技場問題記者会見・登壇者・原科幸彦(千葉商科大学教授)、大野秀敏(東京大学新領域創成科学研究科教授)、エドワード鈴木(建築家)、森山高至(建築エコノミスト)、清水伸子(手わたす会) 建築家榎文彦氏、IOCバッハ会長に手紙を送付
6月15日		●手わたす会 シンポジウム「神宮の森から新国立競技場を考える」を開催、登壇者・三上岳彦(首都大学東京名誉教授)、原科幸彦(千葉商科大学教授)、大澤昭彦(東京工業大学助教)
6月23日		●都知事宛「新国立競技場に都民の税金を使わないように要望いたします」提出

6月25日	JSC解体再入札を公告(条件を緩和して解体専門業者の入札を可とした)	●手わたす会清水伸子 IOCマーク・アダムス主席報道官他と面談
6月27日	IOC調整委員会のコーツ委員長らが準備状況視察および東京五輪組織委員会と協議のため6月25日に訪日、27日に記者会見を行う	
6月30日		●手わたす会から5月31日付IOC宛の手紙の返事が届く
7月5日		「国立さんを囲む会」実施/70mの高さに赤い風船を上げる/●手わたす会 馬車を走らせる
7月7日	JSCによる建築関連団体に向けた新国立競技場計画に関する説明会が行われる(非公開)	
7月11日		参加と合意形成研究会キックオフシンポジウム「新国立競技場計画の持続可能性は」登壇者・浜野安宏(ライフスタイルプロデューサー)、大野秀敏(東京大学新領域創成科学研究科教授)森山高至(建築エコノミスト)鈴木知幸(元2016年東京オリンピック招致準備担当課長・順天堂大学客員教授)三上岳彦(首都大学東京名誉教授)原科幸彦(千葉商科大学教授)森まゆみ(手わたす会)
7月12日		JIAシンポジウム「新国立競技場とオリンピック施設計画に何が必要か？」登壇者・元倉真琴(建築家)、森まゆみ(手わたす会)、坂井文(北海道大学准教授)、上浪寛(JIA関東甲信越支部長)
7月15日		霞ヶ丘アパートを考える会 記者会見 住民と共にアンケート結果を発表
7月17日	JSCは2度目の競技場解体入札を行うが予想価格を下回る応札があったため、契約を留保し調査を行うと発表 欧州4カ国(オーストリア・ドイツ・スイス・スウェーデン)が招致プロセス、オリンピックの費用および規模についての提言書をIOCに提出 JSC解体再入札の開札(落札者保留 最低価額で入札したフジムラを特別重点調査対象に)	7月7日の説明会をうけ、建築関連団体がJSCに質問書を提出(8月8日付けで回答)
7月21日		国際シンポジウム「都市と建築の美学－新国立競技場問題を契機に」美学会主催
7月23日		東京芸大教授が国立競技場の保存を求める意見書を国・JSCに提出
7月24日		●手わたす会 財務省に要望書提出
7月25日	JSCがフジムラを入札無効としたため、フジムラはJSCに官製談合の疑いありと	
7月28日	JSCは公正取引委員会に官製談合の疑いを連絡	
7月30日		参加と合意形成研究会、中間報告会
7月31日	JSCサイトにある国立競技場建て替えに関するよくあるお問い合わせが更新される	●change.orgのネット署名が32000筆に達する
8月1日	JSCが渋谷区議会に第2回説明会を行う	日本建築家協会、JSCに追加質問書を提出(8月22日付けで回答)。
8月6日	7月7日に行われた建築関係団体向け説明会の概要が公開される	
8月19日	JSC 新国立の収支を修正 収入 38億 支出 35億 黒字 3億	
8月20日	JSC 実施設計に着手 設計JVと随意契約 25億7500万 JSC デザイン監修業務としてザハ事務所と随意契約 9億3000万	
8月27日	JSCが再入札の落札者を南北工区とも関東建設工業と公表	
8月28日	フジムラ、内閣府の政府調達苦情検討委員会に苦情申し立て	
9月12日	JSC解体業者未定のまま近隣住民向け解体工事説明会開催	
9月16日		●手わたす会 緊急声明「JSCによる現国立競技場解体工事着手に強く抗議する」を公表 都庁で記者会見
9月23日		手わたす会上村千寿子 日本景観学会2014秋季大会「巨大構造物と景観」で「新国立競技場」について報告
9月25日	自民党無駄撲滅PTが再度新国立競技場整備問題を取り上げる 出席者:河野太郎議員、馳浩議員、橋本聖子議員、大内達史(建築士事務所協会会長)、鈴木知幸(元・2016年東京-オリンピック招致準備担当課長、順天堂大学客員教授)、内藤廣(東京大学名誉教授・新-国立競技場コンペ選定審査員)、中村勉(東京建築士会会長)、森山高至(建築エコノミ-スト)、和田章(東京工業大学名誉教授・新国立競技場設計アドバイザー・元日本建築学会会長)、文部科学省、JSC、ザハ・ハバデイド日本事務所	
9月26日		●手わたす会 シンポジウム「それでも異議あり、新国立競技場－戦後最大の愚挙を考える」日本青年館
9月30日	内閣府の政府調達苦情検討委員会は30日、入札手続きに問題があったとして、入札をやり直すよう求める報告書をまとめる	

9月30日	内閣府の政府調達苦情検討委員会は30日、入札手続きに問題があったとして、入札をやり直すよう求める報告書をまとめる	
10月1日		日本建築学会主催「建築文化週間2014」のイベントとして建築夜楽学校第1夜『新国立競技場の議論から東京を考える』が田町の建築会館ホールにて開催される。登壇者：楳田彦・内藤廣・青井哲人・浅子佳英、コメンテーター：五十嵐太郎、モデレーター：松田達
10月2日	森オリ・パラ組織委員長が無駄撲滅PTのヒアリングについて不快感を表明する	
10月9日		建築夜楽学校第2夜「オリンピック以降の東京」登壇者：市川宏雄・白井宏昌・為末大、コメンテーター：中島直人・五十嵐太郎、モデレーター：藤村龍至
10月18日	東京オペラシティ・アートギャラリーにてザハ・ハジド展始まる(12月23日まで)	
10月21日	JSC解体の再々入札を公告	
10月31日		日本建築家協会、9月8日に開催された「新国立競技場に関する追加説明・意見交換会」の開催概要と資料を公開。
11月5日		磯崎新氏、「新国立競技場は将来『粗大ゴミ』になる。2020東京オリンピックは二重橋前広場で」という文書を公開。
11月19日	磯崎氏、大橋氏(ザハ事務所)が外人記者クラブで会見	
11月20日		●手わたす会清水伸子 IOCマーク・アダムス主席報道官他と面談
11月21日		日本建築家協会、「新国立競技場に関する追加説明・意見交換会」を受けて、JSCに見解及び要望書を提出。
12月3日	JSCは3度目となる競技場解体入札の開札を行ったものの低入札価格調査を行うと発表	
12月5日	ザハ氏による反論がdezeen誌に掲載される JSCは新国立競技場(仮称)新営工事(スタンド工区)②技術協力業務(平成26年度)大成建設と1億3400万契約	
12月8日	JSCは新国立競技場(仮称)新営工事(屋根工区)②技術協力業務(平成26年度)竹中工務店と1億3500万契約	
12月15日	JSC、関東建設興業が南工区を落札と発表	
12月19日	JSC、北工区をフジムラが落札と発表	
2015年(平成27年)		
1月7日	JSC、国立霞ヶ丘陸上競技場等とりこわし工事(北工区・南工区)、工事計画変更などの追加住民説明会(四谷区民ホール)	
1月17日		●手わたす会 外苑キラキラウォーク開催
3月3日	競技場の解体始まる	
3月4日	日本青年館の解体および新国立競技場建設に関する住民説明会(津田ホール)	
3月5日		●手わたす会 緊急声明発表「国立競技場の解体と神宮外苑の樹木伐採に抗議します」
4月24日		日本学術会議「神宮外苑の環境と新国立競技場の調和と向上に関する提言」
5月11日		●手わたす会 まだまだ終わらない勉強会1「景観は誰のものか」講師東郷和彦
5月15日		スポーツ報知「民間会社が950億で出来る格安案を文科省などに提示。政府内に支持広がる」
5月16日		スポーツ報知「オリンピック後は野球チームのフランチャイズに」
5月18日	下村文科相、「開閉式膜はオリンピック後につける。1万5000席は仮設で手動式に」。舛添都知事に500億の負担を要請しに行ったさいの発言。舛添知事反発、「一切聞いていない」「都民の納得が必要」と文科省の対立厳しくなる。	
5月19日	NHKニュース 下村文科相「五輪後の屋根の設置、開催に影響はない」 JSC新国立競技場(仮称)新営工事(スタンド工区)②技術協力業務(平成27年度)大成建設2億2200万円追加契約	
5月22日		朝日社説「お粗末と言うしかない。甘すぎた構想、猛省を」
5月24日		下村文科相「公約の破棄、日本の信頼損なう」(産経)
5月26日		日経「目にあまる、新国立の迷走」
5月27日	五輪担当相、五輪推進本部を設ける特別措置法が参議院本会議で可決	
5月28日	東京都建築許可のための公聴会開催 JSC新国立競技場(仮称)新営工事(屋根工区)②技術協力業務(平成27年度)竹中工務店約3億追加契約	

5月29日	森組織委員長「どっちもどっち。知事の資格ない」	榎グループ（大野秀敏 中村勉 古市徹雄 元倉眞琴 山本圭介）低いキールアーチがコストを押し上げ技術的な無理も生むとして中止を進言。観客席だけに庇がかかるシンプルなものを作る
6月1日		下村文科相「開閉式屋根がなくても五輪には差し支えない。いままで騒音公害のためコンサートが年に1、2回しか開けなかったが、コンサートを年間10回やれば黒字になる」と発言 スポーツ報知（コンサートを10回やれば黒字と言うのは誤り）
6月4日		●手わたす会、舛添都知事宛、500億の都税出費について四季の庭や明治公園の土地所有について、都計審の規制緩和についてなど要望と質問状を提出。
6月5日		榎文彦氏、事務所で記者会見「キールアーチをやめ、シンプルで洗練された競技場を。42ヶ月でできる。維持費も70億でなく26億程度」
6月11日	朝日新聞報道、下村文科相「明確な責任者が誰なのかよくわからないまま来てしまった」舛添知事「都民の生命と財産を守るのが第一の仕事」	
6月12日	森喜朗オリパラ組織委員会委員長「それぞれ自覚してくれないと」「3～4000億かかっても立派なものを」	
6月16日		●手わたす会記者会見「新国立競技場現行案に対する緊急市民提言」／●勉強会2「真国立競技場へ」講師 森山高至
6月17日	自民党無駄撲滅チーム、榎文彦氏を招請、意見を聞く。JSC、文科省などの当事者も参加	
6月18日		榎文彦氏、下村文科相と会談。「謙虚に耳を傾ける」
6月22日		霞ヶ丘アパート住民による記者会見「計画を見直し、住民の声に耳を傾けよ。」
6月24日	政府「現行デザイン案でゼネコンと契約」「アーチを維持、総工費2520億円。2014年6月時点より900億円増」このほか、先送りする開閉式屋根を付ければ総工費2820億（予定）に膨らむ JSC・日本青年館の本棟新築工事を164億7000万円で安藤・ハザマが落札	
6月25日	遠藤利明衆議院議員がオリパラ担当相に就任	
6月29日	都の建築審査会、新国立の用途許可に同意。本来なら第二種中高層住居専用地域で大規模スタジアムは建たない。委員より「市民の意見を吸い上げよ」 下村文科相、オリンピック・パラリンピック組織委員会調整会議で、ザハ案を前提で進めると報告	
6月30日	下村文科相、「予定よりやはり高い。国民に協力してもらう工夫を」とネーミングライツや民間からの寄付を募る方針	
7月1日		日本経済新聞 「都知事、有識者会議で負担根拠聞く 新国立競技場」
7月5日		読売新聞調査、81パーセントが「計画を見直すべき」／毎日新聞 「新国立競技場どうする」池上彰氏 「過去の日本の悪弊の全てを体現する新国立競技場の建設計画」
7月6日		朝日「新国立競技場―見切り発車は禍根残す」議論がつくされていない／●手わたす会勉強会3「新国立競技場は、ほんとうに使えるものになるのか？」講師 鈴木知幸・有森裕子さん発言
7月7日	JSC有識者会議開く。2520億円です承と発表。安藤忠雄欠席	
7月9日	JSCが大成建設と新国立競技場（仮称）新営工事（スタンド工区）における一部建設資材の契約約33億	●手わたす会 緊急声明「神宮外苑100年の森を守るために。2520億円の新国立競技場を許さない」
7月12日		●手わたす会 国会請願・事項1現行案の中止、事項2簡素で使いやすいスタジアムを求め、署名活動を開始
7月14日		●手わたす会 下村文科大臣、JSC宛公開質問状 回答期限7/28
7月15日		●手わたす会 IOCコーツ会長宛 「計画見直し容認表明のお願い」
7月15日		●change.orgのネット署名が50000筆に達する
7月16日	安藤忠雄氏記者会見。大きい建物はやったことがないので工事費はわからないと発言 大野秀敏氏、森山高至氏 有識者として自民党若手議員有志勉強会に招致される	
7月17日	安部首相が白紙撤回を発表	●change.orgのネット署名が80000筆に達する。 ●手わたす会 安藤忠雄氏宛「新国立競技場の記者会見に関する公開質問状 回答期限7/31 日本建築家協会、「新国立競技場計画見直しへの提言について」発表。
7月21日	内閣内閣関係閣僚会議初会合	

7月23日	JSC,有識者会議の解散を発表。/文科省霞ヶ丘アパート廃止白紙撤回を明らかにする。/舛添都知事「下村文科大臣は辞任するしかない。」との考えを示す	
7月24日		日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、「新国立競技場整備計画再検討にあたっての提言」を「新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議」へ提出。
7月26日		●change.orgのネット署名が84,645筆に達する
7月29日	クアランブールでIOC理事会開催 森喜朗委員長が出席し、新国立競技場見直しを報告 バッハIOC会長了承し、今後も注視すると発言	
7月30日		榎グループ国際文化会館で記者会見 「8万人収容の観客席のうち2～3万人を仮設としオリパラ終了後、縮少すべき」と提言 ●手わたす会 参議院会館101階義室で集会 国会請願6,641筆を12名の紹介議員に託す change.orgの署名は内閣府および文科省に提出